

(2) 珊瑚礁内海域における藻場造成の対象海域の底質はほとんど砂礫帯であるので、漂砂対策が必要である。そのため基質の安定度と生育面の高さを各種形状の基質を投入し検討する。

(3) 食害の確認

幼芽について改良保護網を施し、対比試験を行なう。

(4) カゴメノリやイトアミジの着生網ひびをホンダワラ幼芽の基質周辺に設置し対比試験を行ない、食害防止の実用化を検討する。

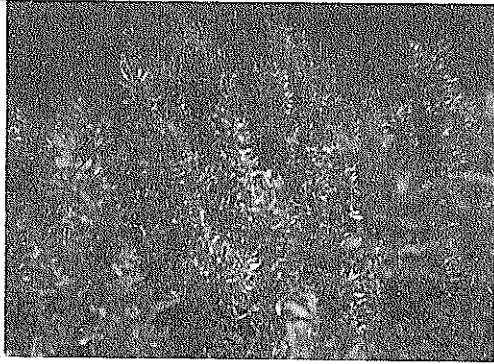
3. 成果の事業化見通し

50年度、51年度の2ケ年にわたる調査・試験の結果、ホンダワラについての基礎的知見と藻場の形成を阻害している要因が明らかにされてきた。珊瑚礁内漁場では漂砂と食害が最も大きな阻害要因であるが、その防止対策もその解決できる見通しが得られている。

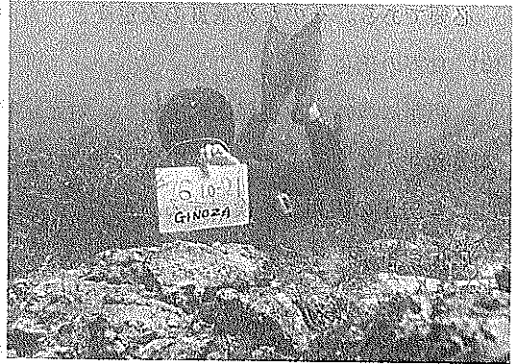
したがって大規模な藻場造成が可能であり、シラヒゲウニの大規模増殖場及び沿岸重要魚種（ハマフエフキ、アオリイカ等）の幼稚仔保育場に必要の藻場造成事業への適用化が実現でき、本県沿岸漁業の発展に寄与するものと考えられる。

参 考 文 献

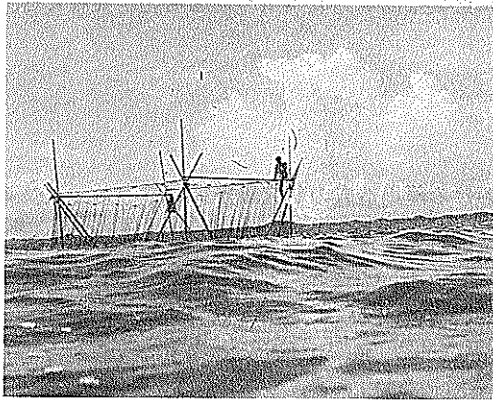
- ① 沖縄県水産試験場（1975）：珊瑚礁内海域における藻場造成の研究報告
- ② 鹿児島県水産試験場（1975）：トコブシ増殖技術研究報告
- ③ 瀬川宗吉・香村真徳（1960）：琉球列島海藻目録
- ④ 新日本動物図鑑（1965）：（中）（下）



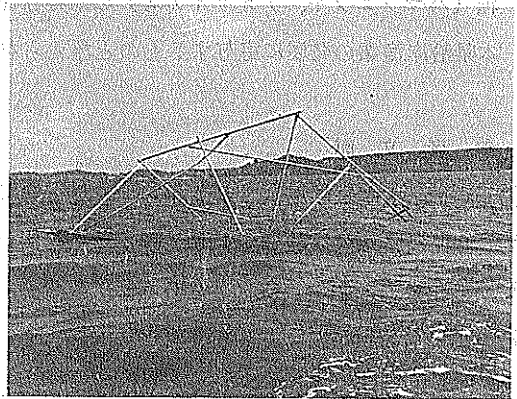
① 1976年8月 母藻採取場所。ツクシモクの繁茂期（大久保）



② 1976年10月21日 ツクシモク消失期。岩盤上にはすでに幼芽が密生する（大久保）



③ 1976年8月4日 保護網の全形（泡瀬）



④ 1976年9月9日 台風17号のために横転し破壊された試験施設（泡瀬）



⑤ 1976年10月22日 台風通過後も残存したヤツマタモク？（ホンダワラSp. 9）（泡瀬）

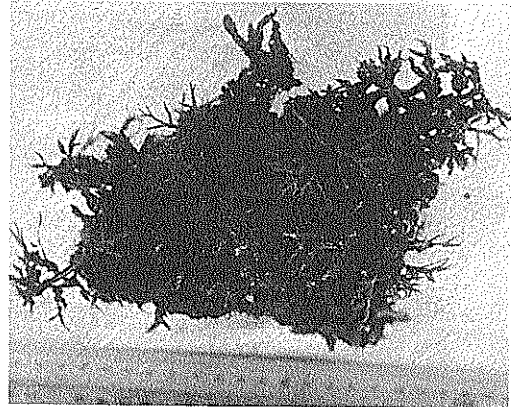


⑥ 1976年11月25日 ワイヤメッシュを利用した漂砂の影響試験（泡瀬）



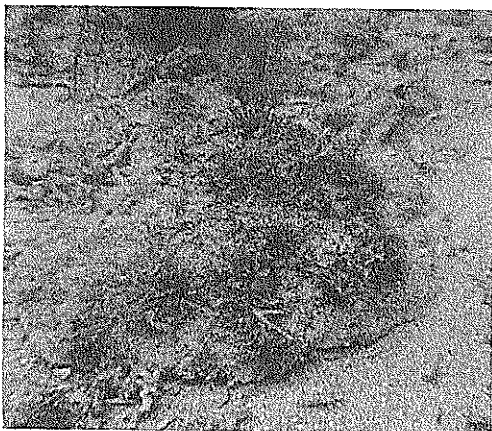
① 1977年2月23日 保護網内の岩礁上やブロックに着生したホンダワラ幼芽の着生量調査 (前兼久)

② 1977年1月18日 母藻移植場所から15mの範囲の礁に着生したホンダワラ幼芽 (泡瀬)



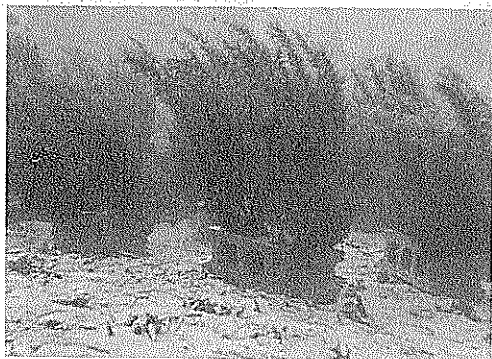
③ 1977年2月1日 鉄製自在クランプや礁に着生したホンダワラ幼芽 (前兼久)

④ 1977年2月8日 保護網から南へ50m離れた場所に発芽が認められたホンダワラ類Sp. 8他? (前兼久)



⑤ 1977年2月23日 大礁に発芽したホンダワラ類。新芽と根株からの発芽がみられる。(泡瀬)

⑥ 1977年2月23日 母藻のついた大礁にそのまま残存したホンダワラ。座株からの出芽もみえる。新しい幼芽も密生。(泡瀬)



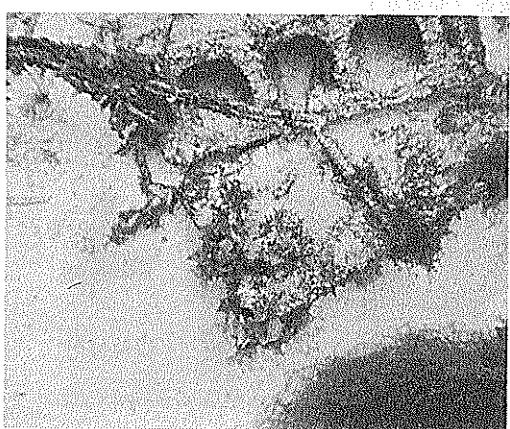
① 1976年10月25日 保護網の外に設置した母藻の移植 (前兼久)



② 1976年10月26日 保護網の中に設置した移植藻の様子 (前兼久)



③ 1977年2月1日 後方のブロックは残存した母藻。手前は母藻はとれているが幼芽の発芽がみえる。ブロックの高さの約半分は砂で埋りかけている。(前兼久)



④ 1977年2月8日 保護網の外のブロック幼芽は数cmまで成長しているものもある。手前の黒い海藻はカゴメノリ

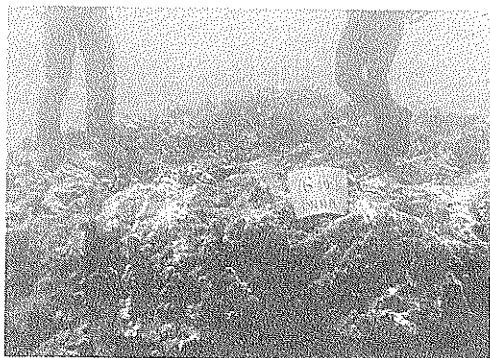


⑤ 1977年2月8日 根石 (縦3.4 m × 横2.2 m × 1.3 m) の上に設置したブロック。ブロックと岩礁の表面はホンダワラ幼芽が密生している。(前兼久)

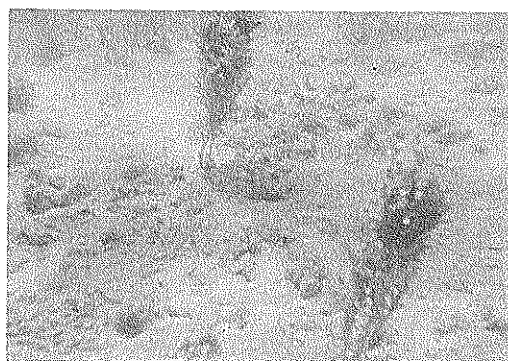


⑥ 1977年2月8日 根石の岩盤上とブロック表面の拡大 (前兼久)

図版 - IV



① 1976年10月5日 縦3.4×横2.2×高さ1.2 mの岩礁 (前兼久)



② 1976年8月4日 保護網周辺の底質。ホンダワラの種類とヤバネモクが点在して生育する。(泡瀬)



③ 1977年2月8日 実験漁場周辺に繁茂したカゴメノリ (前兼久)



④ 1976年8月4日 保護網周辺のアジモ場が大きく削られパッチ状を形成する。(泡瀬)

⑤ 1977年2月23日 母藻のついた大礫に座株から出芽した2株のホンダワラ幼芽と新しく密生した幼芽。ナガウニ、ニシキウズガイもみえる (泡瀬)



⑥ 1977年2月1日 ブロックやワイヤメッシュにはシオグサ類が着生する。(泡瀬)